

## 1 組織

競技スポーツを取りまとめる統括団体としての健全性を確保するための制度を構築する為、JSC及びJOC等の上部組織による指導の下で、必須要件となる各種規程類の整備及びその運用に取り組んで参ります。解決すべき難題が山積している状況ですが、着実に歩を進めなくてはなりません。引き続き本年度も、指導員制度・審判員制度・資格認定制度の策定と稼働に向けて、各種目別団体と連携して調整を進めて参ります。その他、既存の規程の見直しや新規の規程の策定もたゆまずに行なって参ります。

JSCのセルフチェックリストでの指摘により各種規程整備、委員会の設立等体制の構築を進めています。

## 2 普及事業

### ・普及活動全般

シニア世代へアピール要素としては、適切な運動量・頭を使うことによる認知症防止・コミュニケーションツールとしての活用などが挙げられます。これからの高齢化社会において見込まれる需要に応えられる態勢を徐々に整える必要があります。公共の高齢者施設へのテーブル・用具の貸与・贈呈を、全撞工から協力を頂いて続けて参ります。

また、ジュニア世代への普及活動強化も今後のビリヤードの維持と発展の礎として重要であることは、言うまでもありません。本部では、例年参加しているスポーツフェスタに於いて、キッズ対象の普及事業を行ないます。公共の児童館にもテーブル・用具の貸与・贈呈を続けて参ります。

いずれの場合も、年会費改定による今後の収支状況をみながら、本部としての具体的な施策の設定と着手に入りますが、地域密着の普及事業は、基本的には加盟団体各支部に於いて積極的に対応して頂きたい事業です。地域密着型のイベント参加や公共施設等からの講師派遣依頼などへの対応をお願いします。ボランティアが度重なり負担がかかるようでしたら本部にご相談ください。多少の補助は検討させていただきます。本部ではミニテーブル活用書を用意してあります。協会所有のミニテーブルを引越し便で送ることも可能です。

さらに、障がい者の為のスポーツとしてのビリヤード(パラビリヤード)について、パラリンピックの開催でパラスポーツへの国民の関心が高まっている状況を踏まえ、その活動の現状調査を実施し、活動の公認など可能な対応を行って参ります。

### ・学校対抗・学生選手権

かなりの事業支出を伴いますが、学生層への普及を促して競技種目としての認知度を高めるため、継続して参ります。日本学生選手権は、全国規模で参加者数を増すよう工夫し、全日本のタイトルに相応しい試合形態を整える必要があります。学校対抗選手権は、学生自身による主体的な運営が可能になる状況を創りあげることが目標にしています。

本年も体育の日にナショナルトレーニングセンターで開催される「スポーツ祭り」に参加しました。あいにくの雨天で例年より参加者はすくなくはなりましたが十分にビリヤードをできました。学生選手権は尼崎で開催、フリーエントリーですが選手は関西集中ではなく他地区からの参加もあり広まりつつあります。残念ながらコロナウィルスの影響で学校対抗は東北大震災のあった2011年に次いで2度目の中止となりました。

### 3 強化事業

#### ・ジュニアの育成強化

例年通り、アジア選手権と世界選手権への選手派遣がメインとなります。全国的に層が薄くなっている現状で、タレント発掘と選手の育成強化は急務ですが、店舗単位・加盟団体各支部単位の協力が無くして成立しません。引き続き協力をお願い致します。ジュニアの充実はそのまま普及にも繋がるうえ、活動内容は行政・企業・一般社会による業界の評価材料にもなり易く、今後の業界の発展と密接に関わってきます。

例年と同様、JOCからジュニアオリンピックカップの名称を頂いて、4月に全日本ジュニアを開催、上位選手をアジア選手権（中華台北）に4名、世界選手権（キプロス）に2名派遣しました。

### 4 国内大会事業

#### ・国内大会一般

カレンダー掲載の開催トーナメントスケジュールに拠り実施します。加盟団体代表者会議に於いて、今後の課題の検討を行います。

#### ・国体記念大会・国体デモスポ競技

今後の国体関連事業の継続開催に備え、国体デモスポ競技・国体記念大会の開催手引き・開催マニュアルと県協会設立のガイドを作成してあります。国体対策委員会を設置して県単位での国体関連事業の相談受付窓口とし、サポートも行なっています。現在、鹿児島大会開催に備えて順調に準備を進めています。

コロナウィルスの影響で、2・3月の大会にかなり影響が出ましたが1月までは無事に予定通り大会開催ができました。

### 5 選手派遣事業

#### ・海外大会選手派遣

例年の国際大会への代表選手派遣に係る業務を行います。

一部の大会が派遣中止となりました。

### 6 広報事業

#### ・広報媒体の整備

事業拡充推進のための足掛かりとして、公式ホームページの刷新に着手します。また、拡充すべき諸事業について個別に目論見書を開示して広く協賛を呼びかけ、寄付金を募集して参ります。

ホームページの更新は新たな方針で再スタートきる準備ができました。またサイト上で寄付金を募るシステムも検討しています。

## 7 各種委員会

### ・アンチ・ドーピング委員会

実際に検査対象となるトップ選手の属する JPBA と JPBF、そして NBA 本部で構成した委員会で活動しています。助成を受けるために必要な申請も行っています。4 大会で 8 検体の検査を予定しています。ドーピングに関する助成の仕組みが変わるため、日本ビリヤード協会は日本スポーツフェアネス推進機構に令和元年度から加入することとなりました。

### ・CS 委員会

従来 of CS 委員会に代わり、今後は理事会と事務局の連携で CS 関連の業務を執り行います。

### ・協力金委員会

委員の構成が代わり、業務の引き継ぎを行なわれています。業務は正常に機能しています。

### ・公認レフリー・コーチ制度委員会

委員会本部とレフリー制度分科会、コーチ・インストラクター分科会で活動しています。女性委員の推薦もいただき体制は固まりました。7 月中に全委員(14 名)に今までの調査資料ほかを送付して本格的な始動を予定しています。本制度に係る諸費用の捻出については、公式ホームページ上にて目論見書を開示し、広く寄付金を募る方針です。

### ・ルールブック委員会

各団体の協力を得て適時ルールの改正を行ないます。必要に応じて HP に掲載しますが、製本予定はありません。

### ・助成金審査委員会・選手選考委員会

必要に応じ開催します。

### ・普及指導委員会

学校・児童館・高齢者施設にビリヤードを紹介する活動を行います。

実情に応じた委員会活動を実施しました

旧岸記念体育館の移転先新会館(名称：Japan Sport Olympic Square)に本部が移転しました。これに伴い、移転に直接係る経費として 200 万円前後(敷金含む)が見込まれ、移転後も固定管理経費(主に賃借料)も月々約 20 万円の支出増となります。しかし、今後のビリヤード発展のためには、それを補って余りある利点があると考えます。